

## 宮城県気仙沼市と災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式および記念講演会を開催しました（2013/7/13）

テーマ：包括的連携と相互の協力

会場：宮城県気仙沼市本吉広域防災センター，リアス・アーク美術館

7月13日（土），宮城県気仙沼市本吉広域防災センターにおいて，宮城県気仙沼市と東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式が開催されました。気仙沼市は、「海と生きる」「津波死ゼロのまちづくり」などのスローガンを挙げ，生活再建と市域全体の復旧・復興を最優先課題として，全力で取り組んでいます。一方，災害科学国際研究所は，避難訓練や関連するアンケート調査，災害対応および避難対策を再検討するシミュレーション解析の他，気仙沼市立病院との災害時診療録データベース化の共同研究などを通して，今後の対応力の向上を図っており，その他，様々な場面で気仙沼市の防災・減災や復興に関する取組を支援しています。

こうした互いの取組や課題がある中で，東日本大震災の被災地での現地再建に基づくまちづくりの中で減災対策を効果的，そして実践的に進めていくことに関して，気仙沼市と東北大学災害科学国際研究所との思いが一致したことから，今後，互いに連携して，これらを活発化させる礎とするよう，本協定の締結を行うことになりました。

締結式には，菅原茂 気仙沼市長，平川新 災害科学国際研究所長の他，気仙沼市から峯浦康宏 副市長，大江真弘 副市長他，白幡勝美氏，鈴木徳之氏，小松三喜夫氏，吉田信一氏，災害科学国際研究所から今村文彦 副所長，阿部昭 事務長，川島秀一 教授，江川新一 教授，池田菜穂 助教，安倍祥 助手，鈴木康夫 共同研究員が出席しました。協定についての説明の後，「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定書」に，菅原市長と平川所長が署名し協定が締結されました。さらに，協定締結に合わせて，気仙沼市に災害科学国際研究所の分室（サテライトオフィス）を設置する計画の実現に向けて検討を進めていることも報告されました。また，協定締結式の前には，安波山，鹿折地区や気仙沼魚市場など，市内各所における復興状況を視察しました。

締結式の後，会場をリアス・アーク美術館に移し，災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野の川島秀一教授（元リアス・アーク美術館副館長）が，「気仙沼湾と災害史」と題して講演を行い，気仙沼市防災会議のメンバーを含め，およそ70名の方々が参加しました。講演会に先立って今村副所長は，協定は連携の第一歩であり，今後の情報の共有化が大切であると挨拶しました。講演会において川島教授は，気仙沼港の成り立ちと昭和4年の大火や大川の流路改変など歴史的背景について解説し，それらの歴史的経緯を踏まえて新しい町づくりを進めてほしいと訴えました。さらに，気仙沼湾内の津波被害の特徴や復興における民俗学的課題と，東日本大震災後のカツオ水揚げ港の復興をめぐる他県の漁業地域からの支援について紹介し，海を介した人のネットワークの重要性を指摘しました。



署名する菅原市長と平川所長(右)



記念撮影



記念撮影



講演する川島教授

文責：池田菜穂（情報管理・社会連携部門）  
鈴木通江（情報管理・社会連携部門 広報担当）